

1 令和6年度災害時小児周産期医療体制推進部会 検討内容

① 災害時小児周産期リエゾンの役割、体制等について

現状

○リエゾン所属病院と拠点病院の距離、交通手段また発災時のリエゾンの居所から拠点病院までの距離、交通手段により医療対策拠点参集まで時間を要する

リエゾンが到着するまでの間、医療対策拠点設置病院の医師、助産師、看護師等の協力が必要

○発災時の継続的な活動が難しい

意見聴取

リエゾン連絡会のご意見

- ◆ 災害時の自院の業務に加えてリエゾンの業務は困難
- ◆ 医師より人数が多い助産師の活用
- ◆ リエゾンを選出する医療機関が限定されていることのデメリット
- ◆ 発災時の参集は、半数が困難と考え、増員が必須

災害時小児周産期医療体制推進部会のご意見

- ◆ 拠点病院の小児科医、産婦人科医も支援できる体制は有用
- ◆ 助産師・看護師もコーディネート業務は可能
- ◆ 増員しても異動が多いと地域の実情、特色の理解がすすまない
- ◆ 災害対応にあたる人員の中でリエゾンの立ち位置を明確にする必要あり

② 災害時小児周産期リエゾン養成研修について

現状

令和6年度から、養成研修を2日間としたが、受講者数が半減、土日2日間の日程確保が難しい

意見聴取

リエゾン連絡会でのご意見

オンデマンド+演習の2日間

災害時小児周産期医療体制推進部会でのご意見

養成研修：オンデマンド+演習の2日間

フォローアップ研修：同じ内容では進歩しない、
実災害を想定した演習は実災害時のリエゾンの不安軽減につながる

2 今後の取組の方向性

① 災害時小児周産期リエゾンの役割、体制等について

- ◆医療対策拠点の活動要領にリエゾンのサポートを追記
- ◆リエゾン代理の任用数、任用対象について検討

② 災害時小児周産期リエゾン養成研修について

1日目

オンデマンド受講

2日目

集合

オンデマンドは、医療対策拠点の職員も受講対象とし、発災時のサポートをできるようにする

(会議) 災害時小児周産期リエゾン連絡会

<開催日時>

令和7年1月7日(火曜日)

<開催場所>

都庁第一本庁舎42階特別会議室

<出席者>

39名(含 有資格傍聴者3名)

<内容>

令和6年度災害時小児周産期リエゾンの活動報告

令和7年度災害時小児周産期医療に関する取組

今後の体制について協議



(人材育成) 災害時小児周産期リエゾン養成研修

<開催日時>

令和6年6月8日(土曜日)・9日(日曜日)

<開催場所>

ビジョンセンター新宿マインズタワー

<出席者>

12名

<研修内容>

区分	内容
講義	(1日目) 災害医療概論 リエゾンの活動体制・内容の概要 EMIS・PEACEについて 急性期のリエゾンの活動内容 (2日目) 東京都の災害医療体制 区市町村の災害医療体制 平時のリエゾンの活動内藤
演習	都庁・医療対策拠点での活動 EMIS・PEACE



(人材育成) 災害時小児周産期医療体制研修

<開催日時・場所>

(区部)令和6年10月5日(土曜日)

ビジョンセンター新宿メインズタワー

(多摩)令和6年10月26日(土曜日)

me:riseTACHIKAWA Conference Room

<出席者>

(区部)37名

(多摩)16名

<研修内容>

区分	内容
講義	東京都の災害医療体制、リエゾンの役割、情報連絡体制、各医療機関のBCP策定と平時の対応
演習	災害時の初動、災害急性期の対応 EMIS, PEACEによる情報発信、収集



(訓練) 大規模地震時医療活動時訓練

テーマ「受援力の向上」

<実施日>

令和7年9月27日(火曜日)・28日(水曜日)

<想定被災地>

東京都、埼玉県、千葉県、埼玉県

- ① 分娩取扱機関のPEACE入力訓練
- ② 各拠点への参集・活動
- ③ 被災状況の集約、災害医療Coとの情報連携
- ④ 机上の患者搬送調整
- ⑤ リエゾン間(東京都リエゾン⇄地域リエゾン)の情報共有



東京都保健医療福祉調整本部



東京都災害時小児周産期リエゾン